

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.155

2012/10/19

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

世代を越えて保全活動



整備が完了した林床の(12/10/10)

林床整備中の子どもたち(12/10/09)

PHOTO BY KAN

整備前の林床(12/10/08)

小人数で始まった保全作業であったが、年々協力者・協力団体が増え地元の小中学校も本年から定期的な保全作業に参加して貰えるようになった。「山門水源の森」の生物多様性の保全が着々と前進していることは何にもましてうれしいことである。が近々の報道によれば「琵琶湖底『貧酸素』に - ヨコエビ大量死確認 -」(朝日新聞 10/11)・「琵琶湖アユ産卵激減」(朝日新聞 10/12)と琵琶湖の異変が続いている。原因は解明されていないが、琵琶湖を取りまく環境が劣化していることにも原因があるのではないかと懸念される。かつて琵琶湖の水を汲み取って煮炊きをした時代は、何百年も昔の話ではない。たかだか 50 年そこそこ前の話である。巨大な水塊である「琵琶湖の病」は、人の時間スケールである 1 日とか 1 年とかで症状が現れるのではなく、目に見えない形で徐々に徐々に進行する。そしてある日突然『アオコ』がそうであったように症状が顕在化する。巨大な琵琶湖とその集水域からすれば「山門水源の森」などゾウとノミの関係ほどなのだが、本会のような取組が集水域で 1 地点でも多く実施してゆくことこそが、症状の悪化を遅らせることが出来るはずである。



天然更新試験地の植生調査(12/09/26)



ミヤコアザミ播種用苗床づくり(12/10/05)



草刈時刈り取り防止作業(12/10/10)



楽舎北の沢整備(12/10/13)

この 1 ヶ月で行った保全作業は、昨秋伐採を行った「天然更新試験地」での植生調査・観察コースの階段補修(全域完成)・絶滅危惧種ミヤコアザミの播種用苗床作り・17 日実施予定の山門老人会による観察コース沿い草刈時に残しておきたい植物(花や種子)のマーキング作業・楽舎北側の沢(2004 年に整備された沢が倒木や樹木で通水能力が低下しているため)の河床樹木の伐採整備等である。いずれの作業も多くの手が必要で会員の協力あればこそです。作業を毎年続けてきたからこそ今の森があります。10 月後半から 11 月一杯は来訪者がピークになります。これらを観て他の地域でもと・・・



発生が多かったタマゴタケ(12/10/07)



(12/10/07)



PHOTO BY FUJISAWA

(12/09/24)

毎年森の何処かでは観察できるのだが、発生数が少なく多くの人に観てもらうチャンスが少ないタマゴタケなのだが、今年は「四季の森」で次々発生し多くの会員から歓声が聞こえた。伊藤会員が、インターバル撮影をされたのでいつかのチャンスには紹介して貰えるはずである。9月末から10月初旬は何回かの降



シャカシメジ(12/10/06)



イヌセンボンタケ(12/09/24)

トガリツキミタケ
(12/10/06)チョウジチタケ
(12/10/06)クサイロアカネタケ
(12/10/04)ソウメンタケ
(12/10/08)オオゴムタケ
(12/10/08)

雨の結果個々の発生数は少ないものの、発生種数は多い年であった。



アケボソウの蜜腺に昆虫(12/10/07)



アケボソウの実生(12/09/07)



アケボソウの植栽(12/09/07)

絶滅危惧種や希少種の増殖に力を注いでいるが、これらの区別は人間の基準で決めているに過ぎない。それぞれの地域で、その自然環境に適した生き物が分布・生育している。山門水源の森では、1990年代には比較的広い範囲に分布していた植物にアケボソウがある。しかし年々シカの食害によってその分布範囲が減少し、本年は実生以外には分布が確認出来ていない状態になっている。数年前からこの状況は確認出来ていたので、採種して育種を続けてきた。その実生の生育を確かめ付属湿地に定植した。森の生物の状況を絶えず確認しつつ今何をしておくべきかを考える必要がある。



付属湿地に植栽したアケボソウ(12/09/07)